

ろくたんだみなみ
六反田南遺跡
 (糸魚川市大和川字六反田)

六反田南遺跡は糸魚川市のほぼ中央部海岸付近に位置し、前川の形成する小扇状地上に立地する、東西約200m、南北約100mに及ぶ大規模な遺跡です。国道8号糸魚川東バイパス及び北陸新幹線建設に伴い、平成18年4月から本格的な発掘調査を開始しました。今年度は7月まで調査を実施する予定です。

現在進めている調査によって、古墳時代初頭から鎌倉・室町時代にかけて断続的に営まれた集落跡であることが明らかになりつつあります。発見された遺物には古墳時代初頭の土師器、奈良時代～平安時代の須恵器・土師器、室町時代～安土・桃山時代の陶磁器（青磁・瀬戸焼）・銭貨などがあり、遺構は溝・土坑・杭列・ピットなどがあります。遺構の年代については、堆積している土の特徴や出土遺物などを検討し、今後明らかにしていく予定です。（春日真実）



作業風景



土器(古墳時代)出土状況

ぜんなみなみ
前波南遺跡
 (糸井川市大和川字前波)

前波南遺跡は日本海に面した沖積低地に立地し、標高約4mを測ります。道路を挟んだ西側に六反田南遺跡が近接しています。国道8号糸魚川東バイパス建設に伴い、平成18年4月中旬から発掘調査を行っています。これまでの調査で、弥生時代～中世の遺跡であることが分かっています。

遺跡からは土坑や掘立柱建物の可能性のあるピット群が検出されていますが、多くの部分が自然流路で占められています。調査区の東側にある自然流路では、黒色土の上層から中世、褐色土の中層から古代、黒灰色砂や暗青灰色粘土の下層から弥生時代の遺物が主に出土しています。古代と考えられる層からは、少量の須恵器や土師器と共に、刀子鞘、鋤、田下駄、櫛、曲物底板、籠編物、斎串などの木製品に加え、大小の木材が多く出土しています。一方、弥生時代と考えられる層からは、壺などの土器の破片と共に、土錘などが出土しています。自然流路からは今後も新たな遺物の発見が期待されます。（株吉田建設 細井佳浩）



作業風景



鋤先出土状況